

和束天満宮

和束天満宮は、千年以上にわたって町の信仰の場となってきました。学問の神であり天神様が祀られた和束町最大の神社です。毎年秋には豊作の感謝を祝いする祭りが賑やかに行われます。

歴史

正確な創建年は不明ですが、一説によると、10世紀後半に円融天皇（959～991 年）が、死後に神格化して天神になった菅原道真公(845-903 年)の絵を奉納した際に創建されました。道真公は優れた学者、歌人、高位の政治家でしたが、政敵によって追放されました。道真公の死後、自然災害やその他の不幸が起きたことにより、この不名誉な政治家が怨霊になったと信じられました。やがて道真公の生前の功績が讃えられ、天神として祀ると彼の魂も鎮められたと考えられています。

一部の学者は、和束天満宮は、有力都市の文化と宗教が荘園を通じて田舎地方に広まった例であると考えられています。10 世紀、和束は奈良の興福寺の荘園であり、同寺の守護神である春日明神のために神社が創建されました。12 世紀、和束は京都の天神総本宮で

ある北野天満宮の荘園となり、代わりに天神信仰が促進され、これが和束天満宮の創建につながった可能性があります。

境内

本殿は 1348 年に建てられ、非対称のバランスのとれた切妻屋根が特徴的な流造建築様式で、国の重要文化財に指定されています。天神の神使である牛の像が、社殿の周囲に配置されています。

複数の大きな絵馬が本殿前の拝殿に掛けられており、最も古いものは 1856 年に作られたものです。本殿の両側には四つの小さな末社が並んでいます。そのうち三つは一般的に知られる神々が祀られていますが、本殿のすぐ右にある御霊神社には天神信仰特有の人物が祀られています。それは、流刑になっても菅原道真公に忠誠を誓い続けた年老いた祀官、度会春彦です。

参道の南側には、繁栄と商売の神である恵比寿を祀った小さな神社があります。朱色の橋を渡ると、梅宮神社、熊野神社、京都府指定文化財の春日神社があり、境内に末社があることで、参拝者は 1 か所で多くの有名な神々に祈ることができます。

秋祭り

和束天満宮例祭は 10 月の第 2 土曜と日曜に行われます。午後 2 時から宮司が和束地方の豊作の感謝を伝える神事を行います。成人男性が担ぐ大きな神輿 1 基と子どもが担ぐ小さな神輿 2 基が、儀式的に神々を敬い、信仰深い地域を神々に見せるために巡回します。この祭りでは境内にさまざまな屋台が並び、住民や観光客が集まって食事を楽しみながらお祝いします。

アクセス

「東和束」バス停から徒歩約 2 分。車・自転車の駐車場あり。